

長岡工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国語
科目基礎情報						
科目番号	0122			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子システム工学科			対象学年	4	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	『高等学校現代文 B 』 第一学習社 (3 年次購入済)					
担当教員	猪平 直人					
到達目標						
3 学年までの学習活動を土台に、読解力と表現力の両面から、より高度な学習活動を展開する。語彙力や論理的な思考力・表現力などは、文章を実際に読解することによって錬成される面が大きい。そこで、4 学年では、高度な内容の現代文の読解を中心として、あわせて文章作成にも取り組み、国語力の拡充を目指す。 ○関連する科目：国語(1 ～ 4 学年履修)、文学 I (後期選択履修)・日本語文化 (専攻科 1 年後期選択履修)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	高度な内容の論理的文章を的確に理解する。		高度な内容の論理的文章を概ね理解する。		左記に達していない。	
評価項目 2	豊かな語彙力と、正確な言語感覚を身に付ける。		基本的な語彙力を身につけ、正しい言語表現を概ね確認することができる。		左記に達していない。	
評価項目 3	論理的かつ読者を惹きつける、明快な文章を書くことができる。		論理的で明快な文章を書くことができる。		左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達目標 a1 学習・教育到達目標 a2 学習・教育到達目標 b1 学習・教育到達目標 b2						
教育方法等						
概要	3 学年までの学習活動を土台に、読解力と表現力の両面から、より高度な学習活動を展開する。語彙力や論理的な思考力・表現力などは、文章を実際に読解することによって錬成される面が大きい。そこで、4 学年では、高度な内容の現代文の読解を中心として、あわせて文章作成にも取り組み、国語力の拡充を目指す。 ○関連する科目：国語(1 ～ 4 学年履修)、文学 I (後期選択履修)・日本語文化 (専攻科 1 年後期選択履修)					
授業の進め方・方法	講義による読解と、文章の作成を行う。また授業中、各自で作成した文章を相互に添削・批評する。					
注意点	予習・復習を欠かさないこと。課題は必ず期日までに提出すること。国語辞典を携帯して、適宜利用すること。さらに、日常生活における読書習慣を確立させておきたい。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	現代評論読解(1)		評論文 1 の基本的な内容・構成を確認する。	
		2週	現代評論読解(2)		評論文 1 の主旨を理解し、指摘されている問題を、現実の社会に即して把握する。	
		3週	現代評論読解(3)		評論文 2 の基本的な内容・構成を確認する。	
		4週	現代評論読解(4)		評論文 2 の内容を理解し、指摘されている問題点を確認する。	
		5週	現代評論読解(5)		評論文 2 で指摘されている問題を、現実の社会に即して把握する。	
		6週	文章表現力の錬成(1)		テーマに即して文章を作成し、自分の考えを述べる。	
		7週	文章表現力の錬成(2)		文章を交換して相互に添削・批評を行う。	
	8週	文章表現力の錬成(3)		添削・批評をふまえて文章を推敲し、完成させる。		
	2ndQ	9週	現代評論読解(6)		評論文 3 の基本的な内容・構成を確認する。	
		10週	現代評論読解(7)		評論文 3 の内容を理解し、指摘されている問題点を確認する。	
		11週	現代評論読解(8)		評論文 3 で指摘されている問題を、現実の社会に即して把握する。	
		12週	現代評論読解(9)		評論文 4 の基本的な内容・構成を確認する。	
		13週	現代評論読解(10)		評論文 4 の内容を理解し、指摘されている問題点を確認する。	
		14週	現代評論読解(11)		評論文 4 で指摘されている問題を、現実の社会に即して把握する。	
		15週	期末試験		5 0 分。	
16週		試験解説と発展授業		学習のまとめと振り返り。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14

			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	前9,前10,前11
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前6,前7,前8
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前6,前7,前8
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前6,前7,前8
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前6,前7,前8
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前6,前7,前8
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前6,前7,前8
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前6,前7,前8
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前6,前7,前8

評価割合

	試験	レポート					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20